

第3章 自然環境

本市は「日本の名水百選」に選ばれた長良川をはじめ、津保川、板取川、武儀川の支流が流れるまちであり、豊かできれいな水とともに、魚や鳥、植物や昆虫など、多くの生き物の生育・生息の場となっています。洞戸・板取・武芸川北部地域、武儀・上之保地域には広大な森林が広がり、多様な生態系を支えています。また、関・武芸川南部地域の平地に広がる田畑は、農業生産の場としての面と、身近な生き物のすみかとしての面を持っています。身近な自然から自然度の高い森林まで、本市域の自然環境は変化に富んでいます。

しかし、河川での護岸の改変、農地での生産性優先の整備、山地では開発や荒廃などが進んだこと、また、外来の生物の侵入により、本来の生態系が変化してきており、かつての生態系が失われつつあります。そのため、身近な生き物の生息環境を保全し、多様な生態系を保全する必要があります。

一方で、ウシモツゴ、オリエボシ、ギフチョウなどの貴重な種が確認されており、生息環境の変化が進む中、生息状況の継続的な把握と保護対策が必要となっています。

1. 希少野生生物分布調査

本市では、関市に分布・生息する希少野生生物の現況を調査・把握し、良好な自然環境保全の基礎データとするほか、関市環境基本計画に定める生物の多様性の確保に向け、貴重な野生生物の保護を推進することを目的とするため、平成23年度より希少野生生物分布調査を実施しています。

岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物（平成13年発行、26年改訂）および関市の水生生物（平成6年発行）（以下「既存データ」という。）に掲載されている関市に生息または生息の可能性のある希少野生生物について把握を行っており、平成23年度は、準備調査として、あらかじめ既存データの中から、関市内に分布が予想される希少生物について調査対象としてリスト化を行いました。平成24年度以降については、準備調査に基づき生息域を限定できるものについて、順次、次のとおり生息確認調査を実施しました。

調査年度	場所	調査結果
平成25年度	旧関市南部	ギフチョウについては平成24年度と同様にヒメカンアオイの生息場所について調査しましたが、生息の確認は取れませんでした。希少淡水二枚貝については、マツカサガイのみがごく一部で確認できました。また、シデコブシについては、平成24年度と同様に「関市及び周辺のシデコブシ自生地」に基づいて調査を行いました。この調査以降、開発が行われている場所があり、生息域が減少していました。

平成26年度	武芸川	武芸川地域の水路、河川に生息する魚介類の調査を行いました。その結果、希少野生生物として絶滅危惧Ⅱ類のイシガイ、準絶滅危惧種のアブラボテ、ホトケドジョウ、コオイムシの生息が確認されました。淡水二枚貝については1個のみしか生息が確認できませんでした。この淡水二枚貝についてはアブラボテの繁殖に必要となるため、付近に生息場所があると予想し、今後も調査を継続します。
平成27年度	洞戸	洞戸地域を流れる板取川の本流及び支流を調査しました。漁協との調整により網の解禁後の10月からの調査でしたので魚数が少なく、本流については、漁協の過去資料と照らし合わせ、タモロコ、ウナギ、スナヤツメ、ネコギギが確認できませんでした。新たにタカハヤの生息を確認しました。支流については、柿野川でタカハヤ、ウグイ、カワヨシノボリ、高賀川でカジカ、アユ、アマゴ、カワムツが確認できました。
平成28年度	板取	板取地域を流れる板取川の本流及び支流を調査しました。過去の板取川漁協の魚類の資料からタモロコ、ウナギ、スナヤツメ、ネコギギの4種類が確認できませんでした。しかし、タカハヤを新たに確認しました。洞戸地域の板取川と比べ、板取地域ではアカザが捕獲できませんでした。今回、イワナの生息が川浦谷（小谷）、明石谷で確認できました。
平成29年度	武儀(支流)	武儀地域を流れる津保川の支流を調査しました。武儀地域内で津保川に流れ込む支流は板取川に流れ込む支流と似たような魚類を捕獲できました。武儀倉川は他の支流と違い、フナとアマゴが同じ場所で捕獲でき、他の支流とは少し異なり、魚種、数ともに多く確認できました。また、本調査ではトンボの幼虫まで捕獲・同定でき、11種類確認することができました。
平成30年度	武儀(本流)	7月豪雨により大きな災害があり、津保川の川岸、川底の状態が以前とは異なっており、魚種、生息数に影響があると心配していましたが、調査した結果、川に住む生き物に大きな変化はなかったことが分かりました。また、天然記念物に指定されているネコギギ、環境省絶滅危惧Ⅱ類に指定されているアカザも確認できました。近隣住民への聞き込みによると、特別天然記念物のオオサンショウウオが多く生息しているとのことでした。
令和元年度	上之保(支流)	上之保地域を流れる津保川の支流を調査しました。今回の調査で確認された水生生物は魚類18種類、爬虫類3種類、両生類1種類、甲殻類1種類でした。オオサンショウウオ、ネコギギなどの日本国内でも限られた地域に生息する希少種も確認することができました。これらの生き物が生息しているということは、水環境が非常に良いということが考えられます。
令和2年度	上之保(本流)	上之保地域を流れる津保川の本流を調査しました。今回の調査で確認された水生生物は魚類18種類、爬虫類2種類、甲殻類1種類でした。岐阜県レッドリストに指令されているスナヤツメやニホンイシガメ、天然記念物に指定されているネコギギも確認することができました。また、カマツカが新しく分類されたナガレカマツカも確認できました。

令和3年度	市平賀	土地区画整理が行われた市平賀第一工区の水路を調査しました。当該水路は二枚貝の保全を目的として、事前に生息環境の整備を行った水路です。調査の結果、オバエボシガイ、マツカサガイをはじめとする自然繁殖による定着個体を確認できました。このことから、これまでの保全対策は一定の成功を収めていると考えられます。
令和4年度	旧関市	平成24年に調査した場所と同じ旧関市水路について、淡水イシガイ類の調査を実施し、生息数や種類の変化について確認しました。水路の改修工事などで水が干上がった箇所や今回の調査では個体の確認ができなかった水路もあり10年前の調査時より生息数及び種類が減少していました。10年かけて行った市平賀第一工区のイシガイ類の生存は確認できていることから、生息環境の理解と保護活動の必要があると考えられます。
令和5年度	旧関市中部及び北部	<p>10年前に調査した時と比べ、関川・吉田川・志津野川では捕獲数の多少は有りますが、魚種に関しては特別な変化はなく、水環境に関しての変化もあまりないと思われます。</p> <p>寺田川で捕獲確認したオオクチバスについては、以前から工業団地内の調整池にはオオクチバスが生息していることが確認されているので、そこから流出した可能性が高いと思われます。</p> <p>吉田川に関しては、上流の中洞池にブルーギルが生息しているという情報の元、令和5年12月10日と令和6年1月14日に池を干しブルーギルを捕獲駆除しましたが、それ以前に中洞池から流出したブルーギルの可能性が高いと考えられます。また、その他に近くの新池にもブルーギルは生息しているかもしれないので調査の必要があると思われます。</p> <p>小野川では、以前は、ブルーギルは確認されませんでしたでしたが今回捕獲されましたので、今後、上流の溜池の調査も必要と思われます。</p>
令和6年度	旧関市西部、南部及び東部	<p>今回の調査で魚類12種類、甲殻類3種類の水生生物が確認されました。</p> <p>前回調査した吉田川、関川と今回調査した箇所では、魚類の数、魚種について、どの箇所についてもかなり少なく感じました。ただし、西田原の水路では今回初めてウキゴリの生息を発見することができました。</p> <p>山田の桐谷川では特定外来種のオオクチバスが捕獲されました。これは、おそらくこの水路の上流の調整池で密放流された個体が繁殖し、下流に流れた個体だと思われます。</p> <p>11年前の調査と比較しても魚種の変化があまりありませんでした。</p>